



HAPPY HALLOWEEN

# 豊寿園

FRUITFUL TREE

# 豊かな樹

Autumn 2024

Vol. 64

JAPANESE RED CROSS  
SOCIETY FUKUOKA  
PREFECTURAL CHAPTER  
THE SPECIAL NURSING HOME  
HOJYUEN

TOPICS

AREA INFORMATION

HOJYUEN×FAMILY

HOJYUEN'S ALBUM

トピックス  
T O P I C S

## 新型コロナウイルス感染が発生しました！

8月に特養1階とデイサービス内で新型コロナウイルスの陽性者が複数名発生しました。発生後は、ご家族の面会やショートステイの受け入れ制限など、多大なご迷惑とご心配をおかけし、大変申し訳ございませんでした。

それぞれの発生経過については、下表のとおりです。収束後、園内で振り返りを行い、感染予防策の見直し等を行いました。今後も、感染症対策には万全を尽くしてまいります。

## 特養での陽性者発生経過

	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/10	8/11	8/12	合計
利用者様		5名	2名	1名	7名	1名	2名		1名	19名
職員	1名	1名			1名		1名	1名		5名

## デイサービスでの陽性者発生経過

	8/2	8/8	8/9	8/10	8/12	8/13	合計
利用者様		2名	3名	2名		1名	8名
職員	1名	1名			1名		3名



## 運営推進会議を開催しました！

9月24日 デイサービスが外部委員を交え、運営推進会議を開催しました。会議では、稼働状況や、サービス内容や発生した事故内容をはじめ、新型コロナウイルスなどの感染予防対策の状況を報告し、委員の方々から様々なご意見をいただきました。いただいたご意見を参考に、よりよいサービス提供を目指します。

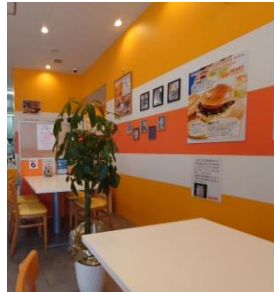


## 夜間を想定した消防訓練を行いました！

9月11日 豊寿園内で夜間に出火したことを想定した消防訓練を行いました。豊寿園は夜間には介護職員5名と警備員1名の6名しかいない状況になります。6名で最大120名の利用者様を避難誘導するため、綿密な連携が必要となります。今後も万が一に備え、訓練を重ねてまいります。

## 地域ぶらり情報

## ボリュームたっぷり



JR門司駅から国道3号線を挟んだ向かい側に『HEART BURGER』があります。2023年9月30日にオープンし、1周年をむかえました。小麦粉と全粒粉を調合した生地企業秘密の材料を加えた香ばしい風味と、外はパリッと中はモチとした食感の自家製バンズと牛肉のジューシーさをそのまま生かしたボリュームたっぷりのパテを使用したハンバーガーです。オリジナルのソースは数種類あり、たまねぎの甘みと醤油のコクをいかしたオニオンソースを使っている「ハートバーガー」はイチオシです。今年の夏にはスパイシーなオリジナルカレーソースの“もじの焼きカレー風バーガー”が新しく発売されました。その他にもパスタやカレーライスがありセットメニューも色々選べます。以前、柳町中央通りにあった“もじのちいさなおかしやさん”が店内に移転しており、チーズのうまみをぎゅっと凝縮したスフレチーズケーキや定番のおかしなどが販売されています。看板のイエロー、オレンジ、ホワイトに合わせた色調の店内は明るい雰囲気です。1周年記念イベントも開催されています。ぜひ一度、食べに行かれてみてはいかがでしょうか？



### 『HEART BURGER』

北九州市門司区柳町2丁目1-28

OPEN 10:30 ~17:00

ラストオーダー16:30

店休日 水曜日

駐車場 ダイイチパーク柳町一丁目(提携)

TEL 093-382-5550



## あしがき

40歳半ばになり、鏡を見るたび自分の老化をひしひしと感じるようになりました。せめて若々しさを保ちたいと思い調べてみると、“感情の老化”を食い止めることが大切なのだ、そうです。気持ちを弾ませ、色々なことに興味や関心を持つことが脳を活性化し、若々しさを保つ、とのこと。以来、聞いたことがないアーティストや流行りの曲など、知らない音楽に触れたり、今まで知らなかった分野をインターネットの動画を見て勉強するように心がけています。毎日を、少しずつ違うものにしていくことで、少しでも“若々しい”と周りに言ってもらえるよう、一生懸命に抗ってみよう、と思う今日この頃です。

豊寿園でも、新しい立場でのチャレンジや資格の取得、研修の受講など、職員は様々な新しいことに取り組んでいます。そういった職員の頑張りなどについても、この「豊かな樹」でご紹介していきます。今後も、豊寿園に是非、ご期待ください。

広報担当 森 英樹



今回表紙を飾ってくれたのは、今年4月に介護職員として入職された貫松愛美(さねまつ あいみ)さんです。入職から半年。業務や技術など、覚えることばかりの日々ですが、年齢の離れた先輩たちに交じって頑張っています。

今回、忙しい仕事を終えてから、園内での撮影に協力してくれました。

## あなたと向き合った日々

HOUJYUEN × Family

今回は、令和5年11月に豊寿園でお看取りさせていただきました白石珠子様の利用開始から最期の時までの経過について、ご家族の了解のもと、園内の記録を抜粋してご紹介します。



今回ご紹介する白石珠子様。やさしく、楽しいことが好きな方でした。写真は令和3年のお誕生日の時に撮影したものです。

— 専門医の受診を勧めても固く拒否されていきました。 —

白石様は北九州市小倉北区の富野でお生まれになり、結婚されてからも生まれ育った実家で生活を続けられ、子供さん二人を育てながら、主婦として家庭を切り盛りされていきました。子育てを終えられたころからペン習字を趣味として習われていました。平成16年にご主人が他界されたのちは、長男ご家族が実家に戻られ、同居されていきました。平成23年頃から自宅で家事をしていると、何度もご飯を炊くなどの物忘れが目立つようになりましたが、長

男さんが専門医の受診を勧めても固く拒否されていきました。物忘れの症状は徐々にひどくなっていきましたが、自宅では長男さんが身の回りの世話をされており、介護保険サービスは利用されていませんでした。平成26年頃にはトイレの場所がわからなくなり、トイレ以外の場所ですり抜けられ、夕方になると自宅近くを徘徊されるようになっていきました。足腰も徐々に弱り、自宅内でも転倒が増えていきましたが、時には自室の網戸を破いて外に出ていかれたこともあったそうです。お世話をされている長男さんの介助には拒否的で、長男さんの介護ストレスは溜まっていき、ご本人との衝突も絶えなくなっていきました。その状態を心配した長女さんが知人のケアマネジャーへ相談し、介護保険の申請を行い要介護3と新規認定されました。ケアマネジャーより、長男さんの介護ストレス軽減のためデイサービスやショートステイの利用を提案し、平成26年8月より豊寿園のショートステイを利用されるようになりました。

— 長男さんが笑顔で出迎えられるようになっていきました。 —

利用開始当初の白石様は介助があれば歩行が可能でしたがお独りで歩こう

とされるため、転倒が心配される状況でした。排泄は尿意はかなり鈍い状態でしたが、誘導すればトイレで排泄ができていました。職員や他利用者様にはとても穏やかで、冗談を言ったり笑われるなど、利用中は笑顔が多く見られていましたが、夕方になるとご家族の心配をされ、不安を訴える日々でした。ショートステイの利用は徐々に増えていき、ひと月の中で二日だけ帰宅する生活になりました。帰宅する際にはストレスが緩和された長男さんが笑顔で出迎えられるようになっていきました。平成27年には消化管出血で入退院されることはありましたが身体状況は変わりなく、平成28年5月に豊寿園の特養に入所されました。

特養入所時点の白石様は、介助で歩かれ、食事も自分で召し上がることでできていました。近くの利用者様や職員と会話を楽しまれ、大声で笑うなど、面会された長男さんも、「母は今が一番幸せかもしれない」と笑顔でお話されていました。入所から1年ほどが経った頃からは、分からないことが増え、不安を訴えられたり、気分の浮き沈みが目立つようになっていき、落ち着かずお独りで歩こうとされたり、夜間帯の不眠やベッドからお独りで降りて歩いて行こうとされるなど転倒の危険性が高くなっていきました。平成30年には右大腿骨頸部を骨折、手術を受けられました。また、足の浮腫が目立つようになり深部静脈血栓症の診断を受け、治療のため入退院されました。2度の入退院を経て、長い距離の

歩行は困難になったため、車いすを使用することが増えていきましたが、会話を楽しむことはできていました。

— 食事が進まなくなり、体重も緩やかに減少していききました。 —

令和元年になると食事が進まなくなり、体重も緩やかに減少していききました。7月には黄疸が見られるようになり、肝障害のため入院されました。入院中も食事摂取が進まず、担当医からご家族へ経管栄養を提案されましたが、ご家族は拒否されたため、退院し経過を見ることになりました。退院後は栄養補助食品や経腸栄養剤などを導入しながら、介助で食事を勧め、不安定ながらも一定量を食べることでできていました。この頃から徐々にご本人の口数が少なくなっていました。歩くことはできなくなり、移乗も全介助が必要になっていきました。

令和2年になると食事は栄養補助食品が中心となりました。体重はわずかながら増え始めましたが、8月には誤嚥性肺炎のため入院され、退院後は日中に臥床して過ごす時間が増えていきました。自発的に言葉を発することは、さらに少なくなっていました。声を

かけると「そうやねー」など短い返答は聞かれていましたが、令和3年に腎盂腎炎のため入院された頃からは、返答もほぼ無くなっていました。

令和4年になると日常生活すべてに介助が必要なり、自発的に体を動かすことはなりました。食事は栄養補助食品の飲み物が中心で、吐き出され、咽こまれることも増え、体重も減少していききました。

令和5年になると、オムツ内の尿の混濁や出血が目立つようになり、微熱を出すことも増え、3月には尿路感染症で入院をされました。その後も微熱を出されては、内服で治療することが続きました。

— 年齢的なことも考えると、これは老衰の状況。 —

11月17日 フロア内で流行していたインフルエンザに罹患し、園内で内服治療を受けられました。発熱はすぐに収まりましたが、痰の絡んだ咳が目立ち、症状が落ち着いた後も喉のゴロ音が時々、聞かれました。

11月26日 深夜、夜勤職員が訪室するとベッドで横になっているご本人が口の中に泡状の唾液をため込まれているところを発見し救急搬送したところ、誤嚥

性肺炎の診断を受けられました。駆けつけられた長男さんに、担当医から「自分の唾液を誤嚥し肺炎を起こしている。年齢的なことも考えると、これは老衰の状況である」と説明されました。長男さんは、「そういった状況で、今回良くなっても、すぐに同じようなことを繰り返すのなら、母にこれ以上過度な医療は受けさせたくないです」と希望されました。

11月27日 白石様は退院され、ご家族と看取り介護を始めることを確認しました。ご本人はすぐに痰が湧いてくるような状況で、看護師による吸引が必要でした。口から食事を提供することもできず、水分で口の中を湿らす程度で経過を見ました。呼吸は荒く、翌日も状況は変わりませんでした。

11月29日 明け方から体の冷感が見られるようになったため、電気毛布で保温していましたが改善しませんでした。9時ごろには足裏にチアノーゼが見られるようになったため、長男さんへ状況を連絡し、お昼前にはご家族が来園されご本人の傍に付き添われました。ご家族の到着後、呼吸が乱れ始め、喘ぐような呼吸に変わっていききました。13時に介護職員がオムツを変えようとした際、呼吸が途絶えがちになり、その数分後、ご家族が見守る中、白石様は呼吸を止められました。

明るく、ご家族のことが心配でたまらないお母さんだった白石さんの笑顔を私たちは忘れないと思います

## 敬老会



## 豊寿園 アルバム



9月 ご家族をお招きし敬老会を開催しました。今年、喜寿・米寿・白寿・百寿を迎えられた方々にお祝い状をお贈りしました。今年の最高齢は104歳で、100歳以上の方々は13名でした。皆さま、いつまでもお元気でお過ごしください。

## 納涼会



8月 2階特養棟で納涼祭を行いました。かき氷や綿菓子の食べ物や金魚すくい、ヨーヨー釣りなどお祭りの雰囲気をお楽しみいただきました。

## 盆踊り



9月 1階特養棟で盆踊りを行いました。職員による余興をお楽しみいただき、皆さんで炭坑節を踊りました。

デ イ サ ー ビ ス

七 夕



7月 皆さんと七夕の飾り付けをしました。

おやつ実演



9月 厨房職員が目の前でホットケーキを焼いて、出来立てを食べていただきました。

園芸活動



9月 立派に出来たスイカを収穫し美味しくいただきました。

実演提供



9月 厨房職員が出来立てのカレーを目の前でよそい提供しました。

納涼会



9月 ヨーヨー釣りなどいろいろな催しをお楽しみいただきました。



Autumn2024

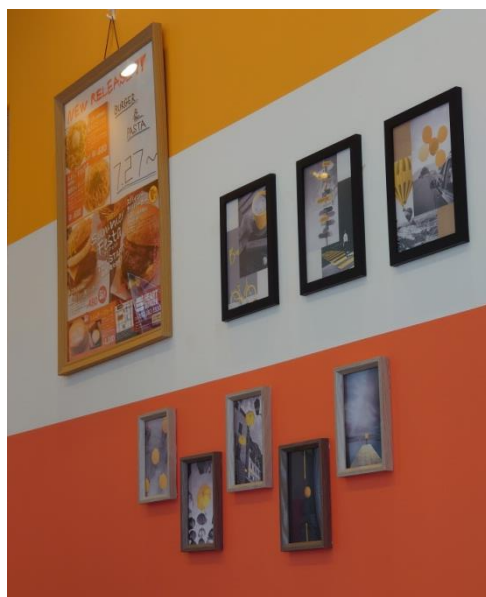
Vol . 64

TOPICS

AREA INFORMATION

HOUJYUEN\*FAMILY

HOUJYUEN'S ALBUM



# FRUITFUL TREE

JAPANESE RED CROSS SOCIETY FUKUOKA PREFECTURAL CHAPTER THE SPECIAL NURSING HOME HOUJYUEN